

平成28年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471400182	事業の開始年月日	平成14年11月1日	
		指定年月日	平成14年11月1日	
法人名	有限会社 仙口			
事業所名	グループホーム みやまの里			
所在地	( 258-0001 )			
	神奈川県足柄上郡松田町寄4165			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	6名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成28年11月3日	評価結果 市町村受理日	平成29年6月23日	

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?0pen>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者と職員が一体となって明るい家庭的な雰囲気作りを行います。 ・利用者が自分らしくゆっくりと楽しく自由に快適に過ごせる様に努めます。 ・利用者の自立への気持ちを大切に心身機能の維持・回復・増進に努めます。 ・町内会、老人クラブ、小中学校、保育園等の行事への参加を通して、地域連携を図り地域に根付いたグループホームづくりに努めます。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成28年12月7日	評価機関 評価決定日	平成29年2月23日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

小田急線新「松田駅」前からバスで「寄(やどろぎ)」行き終点下車、バス停「寄」から徒歩7分程のところにあります。2階建ての民宿を改装してグループホームにしています。

<優れている点>

広い玄関を入ると、家人が射止めた動物(たぬき)のはく製が出迎えてくれます。ホールを挟んで大広間と居間兼食堂があり、大広間は災害時の地域の避難場所になっています。季節によっては数多くの雛祭りの段飾りが鎮座し、吊るし雛が部屋いっぱいに飾られて、地域の人々が見学に来ます。地域の祭りが盛んで、ホームの前の庭は、神輿の休憩所となり、そこで豚汁を振舞ったりしています。食堂の壁には山野草や木の実など自然のもので創作した装飾作品が飾られ、手作り感のあるインテリアに心が和みます。2階が個室になっており、一部の部屋は10帖に板の間付きで、入居者は広い空間を自由に使っています。猫の好きな利用者は自室で猫を飼っており、外から帰ってくるとじゃれて癒しの時間となっています。

<工夫点>

朝食は、入居の部屋に集まって一緒に食べています。時々違う人の部屋に集まり、利用者同士に密なコミュニケーションが交わされています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みやまの里
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	常にその人らしく生活出来るよう全員でその理念を共有し、実践につなげています。	恵まれた自然の中で、一人ひとりがその人らしく、という方針です。必要以上に手を出さず、その人のできる力、わかる力を大切に、暮らしの中で寄り添い、利用者に学ぶ姿勢と共に見守っていくことを実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	祭りや事業や清掃行事には、地域の方々と一緒に参加し、交流を深めている	近所の人から気軽に声をかけてもらい、採れた作物（大根や季節の野菜など）をもらっています。町内会に加入し、3月、5月、8月の地域行事には利用者全員で参加し、互いに顔の見える関係が保たれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者は地域会合やボランティア活動に参加し、いろいろな人々と交流を重ねている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、毎回地域の方や、協力者の人が代わる代わる参加して下さり、向上に向けています。	町内会、民生委員、行政、近所の人、利用者家族の参加を得て、年に4回ほど実施し、利用者の暮らしぶりを報告しています。参加者からは地域の寄り合いなどに声を掛けてもらい、気軽な交流のきっかけになっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	常に連絡を密にとっています。より良い関係を築くよう取り組んでいる。	保健福祉・生活課の他、市などから生活保護その他の打診や連絡をもらい、連携しています。また、寄（やどろぎ）保存会で春先に開催される「若葉祭り」は、近隣5町の祭りの担当者と連絡を密にとり、参加運営しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを全ての職員で禁止をし、その人らしい取り組みでしている。	利用者は道路向かいの敷地の広い所に洗濯物を干したり、近所の散歩など、自由に行き来しています。車での買い物も催促されたり、希望者の声掛けをその都度して、皆で出かけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	決してあってはならない行いである。虐待と云う言葉の通り防止を努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	(成年後見人制度)や(日常生活自立支援事業)も職員と話し合っています。それらの活用出来る様支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	きちんと説明をした上で契約をし、納得をえて取り交わしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常に家族等面会の時など、職員とお茶を共にしながら、いろいろな生活や運営に反映させている。	毎月訪問する家族が数名います。数ヶ月に一度来る家族もいます。ホームの暮らしの中で日を増すごとに本人が明るくなり、それまでの暮らしと比べて、大きな変化がみられ、喜んでいる家族もいます。面会時に気軽に意見交換をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃毎回のように集まる事に提案し、話し合っ改善し反映させている。	職員から自由に意見が言える雰囲気を大事にしています。暮らしの中での利用者の様子や、必要となる備品、消耗品その他、外で利用するカートなど必要なものや便利なものの購入などについて気軽に話題に出し、意見を反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の努力、勤務状況には代表者として常に感謝し、より良い職場環境であるよう努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職場の研修は機会がある事参加をし、働くことを楽しくし、トレーニングをしていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	訪問やみやまの里へ来てもらい、食事やカラオケなどで楽しみを作りサービス向上を計っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の不安や要望を聞き出しそのおかれている状況を理解し他の利用者の方々に早くなじんでもらい同じ立場である事を早く知ってもらう事が一番で有ると考えます。それが本人の安心感と生きる喜びに繋がっていると信じています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	私共の施設の一番の良い所だと自負しています。家族の方の考えや望んでいられる事を知る、その都度話を。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に本人と家族への面会を求め、家庭に訪問して生活環境を見させてもらって支援を見極めサービスの対応に務めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の方々と一人一人が全員で揃って6人6様に良い所やすばらしいものを持っている。6人と職員はいつも食事やおやつは談話しながら共に同士の関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の方々には常に日常生活やその人らしい良い所などホーム内での楽しそうな所等家族の絆を大切に本人を支えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	訪問して下さる馴染みの方々には途切れない様お願いしています。	近所の人が訪ねて来て、季節の野菜や農作物をもらっています。毎年、古くから伝わる寄神社の祭りに参加し、この日は終日会場に出向き、地域の人々と祭り気分を味わっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ほとんど毎日一緒に生活をし、仲良く支え合った暮らしをしています。年齢も同じくらいなので、話がよく合うみたいです。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	現在何年もお付き合いをしているいろいろな相談や支援をして頂く方がいます。大切な事で継続して行きたいと考えている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	すごく良い関係で皆な仲良しで、困難に立ち合った事がないくらいで楽しみながら過ごしています。	皆で食卓を囲み、雑談しながら顔色や表情を見て気軽に声をかけています。必要に応じて聞いたり、本人の希望や思いを受け止めたりしています。利用者同士の話やふとしたやり取りの中に、その利用者の思いが出ることもあり、その人の目線に合わせて傾聴しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や馴染みの暮らしは一人一人よく話され皆な一緒になって話の中に入り全員同じような経緯みたいで話に乗ってやる事が大切と考えます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人らしく生活していく上で状況にぶつかったらもっとも良い方法で解決しながら現状を把握し努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現状を即した計画は家族、本人それぞれと話し合い計画を進めています。	ケアマネジャーは月に1～2回、1時間ほど来ています。個別の記録や本人や職員の話をもとに、介護計画を作成しています。職員は2ヶ月に1回、ミーティングを実施しています。	短期目標の達成に向けたサービス内容について、各項目の実施の可否を日々チェックしていき、計画・実施・評価という一連の流れをより意識することが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員全員で毎日の様子やケアを記録し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	そのつど変えながら本人の状況に対応し支援している。食事と一緒にされる事も多くある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員、自治会長、病院（おひさまクリニック）月2回往診。警察見回り週に1回。消防年に2回有り。豊かな暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	おひさまクリニック、月2回の往診でしっかり管理し適切な医療を受けています。	事業所の提携医は月に2回来訪し、利用者を診察しています。別の提携医に受診している利用者もいます。提携歯科も受診できます。訪問看護ステーションと連携しており、緊急の場合などには看護を受けられる体制となっています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	鶴巻看護ステーションの看護を受けられる様に支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院はスムーズにしています 家族や役所、病院関係者との密な関係を作っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	末期に向け早い段階で話し合いを行っています。事業所で出来る事を十分説明し支援に取り組んでいます。	重度化により、事業所で終末期を迎えた利用者が数名おり、殆どの職員は看取りの経験があります。入居契約時に家族の意見を聞いていますが、病状の変化に応じて、医師の指示を受け、家族とも話し合いながら、終末期の支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当の勉強会を実施している。連絡、対応方法などすぐ目につく所に掲示してある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	いざと云う時の誘導や、災害、避難場所（河原側駐車場）備品の準備もしてある。年2回避難訓練（消防署提出）	年に2回、利用者も参加して避難訓練を実施しています。管理者は地元の消防団長で、月に2回訓練に参加しています。災害時に事業所の建物は地域の避難所になっており、地域の人々の協力を得られる体制です。備蓄品は2階と地下に保管しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	気をつけて本人とのコミュニケーションを取って支援しています。言葉かけも気をつけています。	職員は個々の利用者に適した対応を心掛けています。プライバシーの確保、人格の尊重及び個人情報保護については管理者、職員とも外部講習に参加しています。個人情報に係わる書類は、事務室の鍵のかかるロッカーに保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	希望があれば聞き入れて外出も買物へも手助けし1月常生活続けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人らしい生活をされています。ほとんど共同で毎日を過ごされて、とっても楽しそうです。希望があれば支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	皆さん思い思いのおしゃれをしています。1ヶ月1回の理、美容を支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒にテーブルで食事、準備や片付けも力を合せてやっています。茶碗、箸も一人一人のがわかります。洗濯物も各人のをわける事も出来ます。	食材は地元のスーパーで購入し、鮮度の良いうちに調理しています。食材の買い出しに利用者が同行することもあります。法人代表、管理者とともに調理師免許を持ち、ここの料理はプロの味と評されています。年に数回、外食も実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養、水分補給、食べることを一番楽しみにしています。季節のものやめずらしい食品を集め全体の栄養摂取を把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	習慣づけています。毎食後必ず声掛け支援をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりのパターンに合わせてトイレでの排泄を自立に向けたケアを行っています。	利用者が尿意や便意を感じた時に、自主的にトイレに行くように支援しています。おむつを使用している利用者も、入居時に比べて状況が改善され、失敗することは殆どなくなっています。自立に向けて、毎日適度な運動も実施しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方は今はいられませんが、食事を工夫や運動（散歩を多く）への取り組みをしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでもらいます。個々に応じた入浴の支援。	入浴は通常、週に2回、夏季には3回実施しています。浴室は2階に1ヶ所、1階に2ヶ所あり、うち1ヶ所は常時湯を沸かし、必要な場合は即座に利用できます。衛生面から入浴時は湯を出しっ放しにしており、入浴剤も使用しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼食後にお昼寝の時間を取る。あまり日中は布団での生活は避けて、夜良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員薬の内容を把握しており、その都度手渡し。変化は医師に情報を提供する事になっている。処方箋はケースに保管し職員が見える所にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	自由な生活を心がけているため一人ひとり役割があるようで、楽しみながら生活をしています。見守りの支援です		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	月1回の買物に出かけています。1000円ショップで自由な買物。1人1000円渡し9個の買物と云って渡している買物を楽しんでいます。	天気がよければ毎日、利用者のほぼ全員が参加して散歩に出て、30分ほど自然環境に恵まれた周囲を回ります。また月に1度は1000円ショップに行き、1人1000円以内の買い物をしています。コーヒーショップや温泉などにも時々出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	1000円の買物分のお金を所持してしっかり楽しみ40分位かけてすませレジを自分ですませます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙は喜んで受け取り読んでいます。 電話は受信のみです。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地の良い共同空間を作りには常に気を配って居ります。トイレやテーブルには季節の花を生け、外観の季節の移り変わりを楽しんだりと援助している。	事業所の建物は、以前は民宿として使われており、リビング、台所、浴室などのほかに、畳敷きの大広間があります。毎日職員全員で丹念に共用空間の清掃を行い、利用者も手伝っています。リビングには常時生花を活け、行事写真なども飾ってあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとり居場所が決まっているかの様に同じ場所に座ります。時々変えたりして工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	その人らしいお部屋になっています。自分なりに片付けて居られひどい時には手助けをしています。	大半の居室は、8畳間に板の間付きで、広い空間の中、毎朝、居室の1室に集まり、皆で朝食をとる習慣となっています。カーテン、エアコンなどは備え付けで、ベッドは介護用ベッドをレンタルしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全員が建物内は良くわかっていて、それなり工夫しながら生活を送っています。		

平成28年度

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム みやまの里

作成日： 平成 29年 6月 23日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		問題点としては、毎日が同じ職員なので、同じ意見になりがちです。変わった運営も勉強していく。	変化のある話し合いをしたいと考えて、進めていきたい。	その都度話し合うよう取り組みたい。	12ヶ月
2		市町村との連携 松田町の担当の方と日々連絡を取り、事業所の実情などを積極的に伝え、協力を仰ぐ取り組みをしています。	松田町とは、相談、報告等を行っております。グループホーム協議会の研修等には、積極的に参加をしています。	福祉課の職員と、ケアサービスの取り組みや、問題解決、施設の空き状況などを共有し、協力を築いています。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月